

ゆりかご えんだより

2021・8・1



2期(6~9月)のねらい
からだづくり活動を通して
子ども関係の質を高めよう

「わからなかつたら何回きいてもいいからね」
先月、年長児のぞう組は園に「お泊り」しました。
・親と離れて友だちや先生と泊る
・自分のことは自分です。
子どもたちはこの2つのねらいのもと、クラスの仲間と話し合いを進め、一日半の活動内容を具体化して

きました。コロナ禍なので公的施設や公共交通機関の利用は難しく、近所の公園を2ヶ所巡り、園に戻って夕食のバーベキューを食べ、花火を楽しんで就寝。翌朝はスイカ割りの後朝食を食べ、使用した部屋を掃除し、自分の荷物を整理してお迎えを待つという内容です。

事前に保育士が、お泊り用のカバンの中に前もって準備して入れておくものと、当日リュックの中に入れて持ってくるものを分けて絵にかいて子どもたちに伝えましたが、Mちゃんは混同してしまったのか「かたかたストーンと落ちないようでした。初めて経験することへの不安もあってか、心なしか表情もさえません。クラス全体で行った荷物点検が終わってから、個別に再度伝えてみました。わかっている者がそうでない者にこじばで教えるということではなく、絵を描き一緒に考えながら持ち物を確認していくと、こながらた糸がほどけていくかのように理解していきました。表情も明るくなりお泊まりへの期待も高まっていきました。

翌日、Mちゃんの荷物への不安が払拭されたかどうか気になったので、Mちゃんに荷物をどちに入れるかわからなくなっちゃった」と言ってみました。すると、「それはカバン」「それはリュック」と自信満々な表情で教えてくれました。そして、そのあとに続いたこじばが「わからなかつたら何回きいてもいいからね」です。「わからなかつたら何回きいてもいいからね」と言っているのです。

ちなみに、お父さんお母さんにお泊まりで楽しかったことを報告する機会があったのですが、Mちゃんは「花火に火をつけるのが楽しかった」と報告していました。火をつけるのが怖くて尻ごみしていたけれど、友だちや先生に励まされて、最後の1本は自ら火をつけることができたのです。苦労したからこそ獲得できたことへの喜びは大きいのだと思います。

今回の「お泊り」、「友だちと一緒にだから楽しかった」という思いはもちろんです。子どもたちそれぞれが「こんなことがあった」と思えることが1つでもあれば嬉しいけなめと思うのでした。

